

これから教育現場はどう変わるのか

『とちぎ次世代研究会』
佐貫薫 矢板市議会

はじめに

- 教育はまちづくり、人づくり
- 参政権のない子供⇒大人の責任



1 部『ファクト』

- 下村文武科学大臣の諮問文にて2020年以降戦後最大の変化
- 現中1が大学1年の際センター試験がなくなる。
- 2100年の日本の人口4200万人⇒AI化も進むP5
- 今の中学生が生きる『これからの時代』
⇒国内でもグローバル人材が必要になる。P6
- シンギュラリティー以降の人材はP6

1 部『ファクト』

- 2018年度新学習指導要綱の移行措置開始(小学校は2017～)
- 2020年度センター試験廃止また2021(中学)2022(高校)
- 学校の先生を信じていないからゆとりは失敗

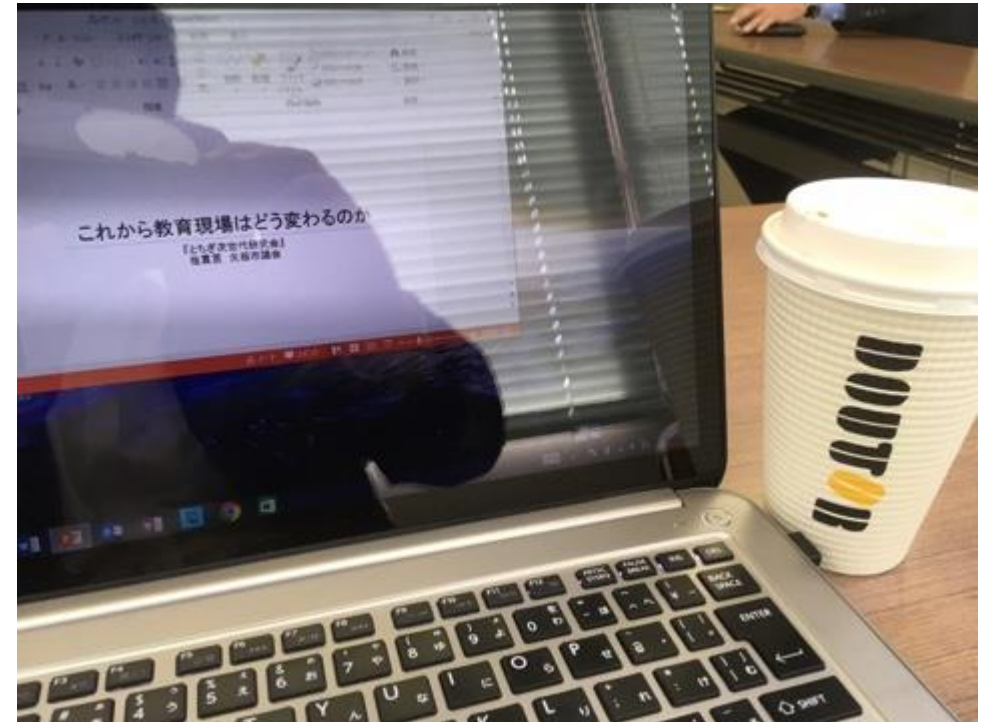
1 部『ファクト』

- 教育は上から変わる『社会⇒大学⇒大学入試⇒高校・・・』
- 教育格差⇒小4から著しく変わる＝小1から小4までが大切
- 太田原モデルは注目⇒洋一君ドリル(プロセスが良い)
⇒宿題のフラット化
- 保育の土壌整備
- センス＝基礎学力＝知識量
- 教員の多忙化⇒年収とのバランスが悪い
- 栃木: 自己肯定感は強いのに学力が低い
⇒非認知能力(保育)水準は良いが認知能力が低い(小1以降)

2部『ディスカッション』

多忙化

- 学校の守備範囲が広すぎる
⇒ 家庭や地域、環境まで...



2部『ディスカッション』

教員の指針

⇒テスト統一

- 教員の評価を学力だけは難しい
⇒地域、家族の問題も大きい

保育

- 非認知能力
⇒栃木の保育のレベルは高い
3VS1が小1から低い

その他

- データの活用化には踏み込むことが必要
⇒マーケティングを知らなければできない
＝コンサルは必要！経費削減だけが良くない
事務局
- ポストモダンは今200年程度（資本主義）
- プレモダンは幸せだったと？ブータン。
- 貧困立と学力は相関がある。